

# 施設紹介

## 熊本県身体障害者

### リハビリテーションセンター

熊本市長嶺町二二五五—三三三三  
電話(〇九六三)八一—四四二一

当センターは、今日の著しい社会環境の変化に伴う身体障害者のニーズの多様化に対応するために、機能と技術の一層の

充実をはかり身体障害者福祉施設の中核的な役割を持つ施設で、昭和五十三年十一月に日赤病院の隣に建設されたもの



で、当センターは、機能的に大別すれば、更生相談部門と、主として肢体不自由者を対象とした更生指導部門並びに補装具製作部門とから成り立っています。(更生相談部門)

身体障害者の医療、教育、職業などあらゆる問題について相談に応じるとともに、社会適応のための医学的、心理学的、職能的判定を行い、これに基づいた適切な助言指導を行うことを主要業務とする部門です。

特に医学的リハビリテーションの医療スタッフや理学療法士、作業療法士等の専門的技術スタッフについては、日赤病院並びに熊本大学病院の全面的な協力をいただき、下記のとおり相談日を設け相談に応じております。

(更生指導部門)

十五歳以上の身体障害者手帳を持っている肢体不自由者等で、更生の意欲を有し、日常生活に介護を要しない者を入所または通所で訓練し、その障害を克服して、社会復帰のち社会経済活動に参加できるように指導する部門です。

入所定員は七十名(入所六〇名、通所十名)で、入所期間は一ケ年ですが、必要に応じて延長もしております。完備した寮の設備があり、訓練に必要な経費は一切不要で、食費も世帯の収入が、国の定める収入基準額を超える場合のみ自己負担となっております。また、食費の公費負担者には訓練手当も支給されます。

訓練内容は次のとおりです。

○機能回復訓練——「体を作れ」をモットーに、医師の処方と指示に基づいて、各種の訓練用具、設備を用いて、障害の部位、程度に応じた機能回復訓練を毎日行っています。

○社会生活適応訓練——「心(人)を作れ」をモットーに、グループで或いは個別にケースワークをし、社会人として必要な良識と、世の荒波にもくじけない人間像の育成を図るほか一般教養、クラブ活動等も行っています。

○職能訓練——「仕事に就ける能力を」をモットーに、自立更生に必要な職業に対する適応性を判定し、職業能力の開発のため、作業習慣、作業耐性、作業速度、就業知識を指導しており、より技術の向上を図るため次の科を設けています。

縫製科(洋服、洋裁)、事務印刷科(写植、タイプ、オフセット、名刺、印章)、電気機械組立科(時計修理)、木工科、義肢科(製作、修理)、手工芸科、  
○補装具製作部門——補装具の研究開発のほか福祉事務所からの委託をうけて、補装具(義肢、装具)の製作及び修理を行っています。

そのほか身体障害者の更生援護に必要な情報を収集し、情報バンクの機能を持ち、あわせて展示コーナーの設置等、身体障害者のニーズに合わせてキメ細く身体障害者の福祉をすすめております。



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

## 人並みは人並み

大相撲 関の戸親方

(元関脇 福の花)

大相撲の関の戸親方を、東京の自宅に訪ねた。両国の相撲部屋界隈から少し離れた静かな住宅街だった。

親方は、昭和十五年七月一日、菊池郡合志町大字豊岡字原口一四二番地で、福島重義・ツル子の長男として生れる。

昭和三十二年十一月、角界一の名門出羽海部屋の門をたたき、持ち前の真面目さと、「人並みは人並み」という母の教えを忠実に守り、昭和三十九年五月、幕下全勝優勝し、七月十両に昇進、十両八場所で入幕、更に九場所小結に昇進し、四十六年初場所で関脇となる。

身長一八二センチ、体重一三六キロと均整のとれた体躯で、突張り、吊り寄りを得意技とし、特に突張りは、フックの花の異名をとって、観客をおおいに沸かせた。

土俵生活十八年、一〇八場所を勤め、敢闘賞に七回輝き、五十年十一月九州場所を最後に引退。現在、勝負審判員として角界に留まり、後進の指導育成に活躍中。

本名、松井孝一。現住所・東京都墨田区亀沢二—二二—七。

## 馬のり

菊池郡合志町の出身で家は農家でした。二町八反位耕作していて、父が早く亡くなったもので母がやってきました。

小学校の頃は近所の子供達と真暗になるまでよく遊んでいましたね。正月頃の遊びは凧と独楽。田舎だったので一面麦畑で、今みたいにどこそこ電柱はないし、凧がよくあがったなあ。畑をふみ荒しおこられもしました。東京では、ちよっとそこいらで凧をあげるといふ訳にはいきませんが、熊本だったらまだ大丈夫でしょう。

遊びの中で面白かったのは「馬乗り」ですね。二組に分かれてやるあれですよ。馬になる組と乗る組に。馬の組の一人が壁などにねんかかかって、その股のところに頭を入れ、何人かがつながるわけですね。その背中に一方の組が飛び乗るんです。そしてジャンケンをしてその結果で乗る組が替わるんですが、ジャンケンする前に馬がつぶされちゃったりして。特に私みたいな。大きなヤツが乗ったら。(笑)

しかし、この頃は凧、独楽、ビー玉等の昔からの遊びを子供達がしなくなったみたいですね。大人が教えてやらないのか、遊ぶ場所、時間がないのやら、寂しい気がしますね。

家の子供達も勉強に追われて大変みたいですが、私の頃はそんなに勉強しなく